

# 「キリストのからだ」における救世軍

— 教会に関する表明 —



# **The Salvation Army In The Body Of Christ**

An Ecclesiological Statement

Copyright © 2008

The General of The Salvation Army

First published 2008





## 目 次

### 序 文

|                       |       |    |
|-----------------------|-------|----|
| 表明の要旨                 | ----- | 1  |
| 詳細な表明                 | ----- | 3  |
| 地上における「キリストのからだ」である教会 | ----- | 3  |
| 教派の多様性                | ----- | 4  |
| 地域教会 (Local Church)   | ----- | 7  |
| 救世軍のアイデンティティ (自己同一性)  | ----- | 8  |
| 救世軍と他のキリスト教会          | ----- | 9  |
| <br>救世軍の教理            | ----- | 13 |
| 少年兵の約束                | ----- | 15 |
| 救世軍兵士の誓約              | ----- | 16 |
| 士官の誓約書                | ----- | 19 |



## 序 文

「キリストのからだ」である教会において救世軍がどのような場所に立つか、ということに関するこの表明を、世界各地の救世軍人に紹介できることは喜びであり、光栄です。この表明は多くの段階を経て準備されたものであり、このために貢献してくださった多くの方々に深い感謝を表したいと思います。特にロンドンの万国本営における、ウィリアム・フランシス中將を議長とする万国教理委員会のメンバーおよび万国運営会議のメンバーは、それぞれ多様な民族から構成されており、グローバルな性格をもった姿勢と洞察を示してくれました。

世界中に存在する諸教会、諸教派、超教派団体（パラ・チャーチ）、教会会議、その他のキリスト者グループの中において、私たち救世軍の立場を理解する際に、すべての救世軍人に役立つようにというのが、この表明の目指すところです。とくにエキュメニカルなつながりのなかで活動に従事している方々にとっては、この表明が役立つことでしょう。また、もし相互理解の助けとなるならば、救世軍外の方々とも、広く分かち合うことができるようになっています。この表明はなにか新しいことを述べようとするものではありません。むしろ、この表明の目的は、より広い「キリストのからだ」としての教会の中における私たちのアイデンティティに関して、現在、世界的に行われている考察を明確にし、また統合することです。

どうか、神がご自身の限りない栄光のために本書を祝福して用いてくださいますように。どうか、救世軍が先取的かつユニークな仕方教会としてのいのちを表し続け、それと同じように、救いを受けていない人々に対する不変の使命を忘れることなく、いつでも神の導きに従うことができますように。

2008 年 4 月

大將 ショー・クリフトン



## 表明の要旨

1. 地上における「キリストのからだ the Body of Christ」である教会は、イエス・キリストを救い主として、また主として信じる人々すべてによって成っている。(本書において、「キリストのからだ」は、公同の教会 the Church universal としても言及される。)
2. キリスト者は互いに霊的關係に立つものであるが、その霊的關係はどのような教会の構成にも依存しない。
3. 救世軍は、三位一体の唯一の神のみもとにあって、地上における「キリストのからだ」である教会、すなわち公同の教会に属しており、地上において「キリストのからだ」を表している。また救世軍は、神によって召され、保たれて存在し、救われていない人々に対する不変の使命をもつ、キリスト教の一つの教派である。
4. 教派的な相違があるということは、ただちに神の民に対する神の御心に反しているということではない。
5. 教派間の調和と協力は、それらがこの世における「キリストのからだ」である教会のいのちと証し、またひいては各々の教派のいのちと証しを豊かにする上で大いに役立つがゆえに、これを積極的に追求すべきである。
6. 救世軍は、証しと奉仕の特権を与えられている多くの国々において、他のキリスト者と関わりをもつことを歓迎するものである。





## 詳細な表明

### 地上における「キリストのからだ」である教会

1. 私たちは、新約聖書においてはしばしば「聖なる者たち」（ギリシャ語ではホイ・ハギオイ、エフェソ 1・23）と表現されているところの、地上における「キリストのからだ」である教会は、生まれつきの家系・人間の決心・配偶者の意思によってではなく、「神によって」（ヨハネ 1・13）生まれたすべての人々によって構成されるものであると信じます。公同の教会には、イエス・キリストを信じ、イエス・キリストを救い主かつ主であると告白し、互いに愛し合うこと（マタイ 18・15－20、ヨハネ 13・34、35、エフェソ 5・21）および自己犠牲の奉仕（マルコ 8・34、マタイ 20・25－28、ヨハネ 13・1－17）を通して聖い<sup>きよ</sup>献身を証しするところの、すべての信仰者が含まれます。

私たちは、公同の教会が、その存在と正当性について、いかなる特定の教会の構成、特定の礼拝様式、特定の儀式を行うことに依存するものではないと信じます。

2. 私たちは、公同の教会とは、礼拝し、証しするキリスト者の共同体のすべてであると信じます。この共同体はいく世紀にもわたるものであり、あらゆる集まりから構成されています。その集まりには、大きいものもあれば小さなものもあり、人々に受け入れられたものもあれば迫害されたものもあり、裕福なものもあれば貧しいものもあります。過去においても現在においても、人々はこのような共同体に招き入れられているのです。

私たちは、地上における「キリストのからだ」、すなわち公同の教会の定義づけをしようとする時、それが教会の構成という点に限られてしまうものではないと信じます。公同の教会についてはむしろ、恵みによる霊的関係という点から述べられるべきであると信じます。その恵みの表れは、すべての教会の構成において必ず見いだされるものです。「キリストのからだ」の一員は、イエス・

キリストと一つに結び合わされており（エフェソ1・1）、神の御子を通して、神と和解させていただいた者たちです。そのような人々はお互いに霊的な関係にあります。この霊的關係は、外的要素にかかわらず、主のものとなった人々が「一つになる」ようにという主イエスの祈りによって始められ、継続されているものです（ヨハネ17・23）。このような一致を願う主イエスの祈りは、父、御子、聖霊が一つであることに基づいています。「一つになること」（一致）は霊的なものであり、組織的なものではありません。

3. 私たちは、救世軍は、公同の教会に属し、公同の教会における特有の交わりの一つであること、また「キリストのからだ」である教会を表していることを信じます。キリストは、「まことのぶどうの木」（ヨハネ15・1）です。すべての信仰者は、キリストに似た者としての一致において生きようと聖書によって熱心に促されながら、生きて実を結ぶ、キリストの枝です（コリント一 12・12）。

私たちは、キリストの真の弟子からなる共同体は、その歴史・習慣・実践がいかなるものであるとしても、他のキリスト者の共同体の歴史・習慣・実践と比較して、公同の教会の一部ではないとすることは正しくないと信じます。神だけが、真に神に属する者たちを知っておられます（テモテ二 2・19）。

## 教派の多様性

4. 私たちは、神がご自分の意志にしたがって、ご自分の民を間違いなく取り扱われるということ、しかし、人間の応答は不完全であり、誤りやすいということを信じます。教派という豊かで多様なタペストリー（つづれ織り）が織りなされ、今日認められるように至ったのは、神の間違いのない取り扱いによるか、あるいはまた人間の誤りやすい応答によるのかもしれませんが。

私たちは、どのような場合においても、教派的あるいは組織的な多様性がただちに、ご自分の民に対する神の御心に反していると言うことはできないと信じます。

5. 私たちは、神がご自分の栄光のため、また福音の宣言と実践のために、ご自身の目的にしたがって救世軍を建てられたことを信じます。

私たちは、救世軍が独自かつ特有のキリスト教会として存在しており、その形態や構成において他のキリスト教会とは分離しているということが、イエス・キリストの福音を辱めるものではないと信じます。あるいはまた、救世軍という特有の存在が、地上におけるご自分のからだ全体に対する神の御心に明らかに反するものではないと信じます。

6. 私たちは、救世軍の実践が他の諸教会の実践と多く共通していることを信じます。しかし、救世軍は独自の任務のために神によって建てられたものであるがゆえに、神の導きにより、次のような特質を組み合わせ、取り入れるに至ったことを信じます。

- a) イエス・キリストに対する信仰による、個人的宗教、個人的な霊の新生を強調し、ひいてはキリストのために人々を得ようと努める使命（ミッション）に献身することを強調する。
- b) 福音を絶えず宣べ伝えるために献身し、この福音があらゆる人々のためのものであると主張する。
- c) <sup>きよめ</sup>聖潔と聖い生活について教える。
- d) 内的恵みを受けることは、外に現れた特定の儀式には依拠しないと教える。
- e) 苦しむ人々、貧しい人々、隅に追いやられた人々に対して、分け隔てなく、また、なんら条件をつけることなく、世界規模で奉仕するという伝統に立つ。これは、全人類に対するキリストの憐れみ深い愛から生まれるものである。また、これに併せて、社会正義の諸問題に対しても、公の場で自らの立場を主張する。

- f) イエス・キリストの大宣教命令に従う〔参照、マタイ 28・18－20〕。  
聖霊の導きのもとで、神を喜びたたえ、神に感謝を献げつつ、救世軍人の証しと奉仕が新しい国々に広げられ、また救世軍の万国主義が広げられることによって進められていく。
- g) 定まった典礼や式文をもたず、かつ柔軟な礼拝のあり方を優先し、たとえば、祈りや個人の証しにみられるような、自発性の奨励に努める。
- h) 提示された福音のメッセージに対する、公の応答へと招く伝統に立つ。この目的のため、あるいはその他の霊的目的のためには、恵の座を用いる。
- i) 自らを表現するにあたり、「イエス・キリストの兵士」(テモテニ 2・3、エフェソ 6・11－17) としてこの世に生き、また神に仕えるという、聖書的な戦いのメタファー（暗喩）に焦点を合わせる。
- j) 救世軍の完全な一員となることを望み、それによって地上におけるキリストのからだである教会の公式な一員（兵士および少年兵）となる誓約を結ぼうと願う成人および子どもは、イエス・キリストが救い主であり主であるという信仰を公に告白することが求められる。子どもについては、生活のあり方と主要な霊的訓練に関する約束と共に、簡潔な仕方では信仰を表明する（『少年兵の約束』を参照）。成人については、公式に教理的および倫理的な誓約を結ぶ。倫理的な誓約に関しては、人間関係の神聖さに焦点が合わされているが、しかしまた禁酒禁煙、依存性のある薬物を医療目的以外に使用しないといった個人的な規律をも含んでいる（『兵士の誓約』を参照）。
- k) キリストのものであるということの証しとして、また人々のために働くものであるという表れとして、特有の制服を着用する。
- l) 兵士としての完全な誓約を結ぶことは望まないものの、信仰の旅路における一つの段階として、同友者になることを願う人々に対

しても、救世軍の交わりに入ることを奨励する。

- m) キリスト者の礼拝、働き（ミニストリー）、教会的権威をもつことをも含むリーダーシップ、といったあらゆる面にわたって、キリストのからだである教会においては男性も女性も等しく場が備えられていることを認める。
- n) 礼拝と伝道において、あらゆる形態の音楽的表現を進んで用いる。多くの文化圏において、固有の礼拝表現や方法を奨励する。

私たちは、以上のような、これまで神の導きと祝福のうちに行われてきた方法や考え方を強いて排除してしまうことが、救世軍におけるご自分の民に対する神の明らかな御心ではないと信じます。むしろ、神の御心は、救世軍が謙遜のうちに、それら過去の神の導きと祝福を重んじ、それらから学び、将来の証しと奉仕が適切なものであり続けるために、それらを利用し、取り入れることにあると信じます。

## 地域教会 (Local Church)

- 7. 私たちは、ちょうど真の普遍的教会が主イエス・キリストを信じるすべての信仰者によって構成されるのと同様に、各々の教派教会が信仰者の共同体によって構成されることを信じます。信仰者は、聖霊を通して、主によって共同体として取り扱われることにおいて共通しています。それと同時に、各々の教派教会は、地理的には比較的限定された範囲の中で、礼拝、交わり、奉仕のために定期的に集う、その地域の会衆によって構成されています。

私たちは、教派や地域教会の妥当性がいかなる特定の教会的な伝統、構造、階層、礼拝や礼典の様式にも依存するものではないと信じます。二人または三人がイエスの御名によって集まる時には、イエスもその場に臨在しておられます（マタイ 18・20）。その臨在は、より規模が大きく、格式のある儀式や礼典の設定において理解されるものと同じように、真正です。

## 救世軍のアイデンティティ（自己同一性）

8. 私たちは、救世軍がまだ救われていない人々に対する恒久的な使命に立つ、万国的なキリスト教会であるということ、また他のキリスト教会と同様に、キリストのからだである教会を形成するために欠かすことのできない一部であることを信じます。そしてまた、救世軍の各小隊が、他のキリスト教会における各教会と同じような、地域教会であることを信じます。メソジスト派のリバイバルから生じた救世軍は、他の教派には融合されることのないものであり続けています。ウィリアム・ブースは、それ以前の他の改革運動と同様、新しい教派を設立することを意図的に企ててはいませんでした。しかしながら、歳月を経て、救世軍主義について出てくる自己理解や他者による理解は、（初期においては「キリスト教伝道会〈ザ・クリスチャン・ミッション〉」として知られていた）超教派団体のような福音伝道のリバイバル運動から、まだ救われていない人々や追いやられている人々に対する恒久的な使命をもつキリスト教会へと移行してきました。救世軍人は今もなお、単純に「軍隊（アーミー）」、「伝道団体（ミッション）」、「運動体（ムーブメント）」と呼ばれること、ある意味においては「慈善団体（チャリティー）」と呼ばれることについても心地よさを覚えます。これらの描写はみな、「教会」と並行して用いることができます。このような多面性をもつ救世軍のアイデンティティは、地域・国家・国際規模といった、それぞれの次元における、エキュメニカルな場において歓迎されますし、また実際にそれぞれにおいて立場を得ています。

私たちは、救世軍が、その歴史、構成、実践、信条のゆえに、神のみもとで成し遂げるべき目的と果たすべき使命とを携える明確なキリスト教の教派とは別のものである、と理解されるべきではないと信じます。同様に、救世軍の各地域の小隊は、それらが何よりもまず、神の恵みにより、キリストの御名において礼拝、交わり、奉仕のために定期的に集う各地域の教会の会衆であると理解されないならば、正しく理解されたということではできません。ですから、救世軍の各地域の集まり〔小隊〕は、霊的な局面と社会奉仕の局面を併せもつ、総合的かつ全人的な働き（ミニストリー）を地域の

人々に対して提供します。任官された救世軍士官（男女共に）は、神に召され、聖霊によって力を受けた、正当に任職されたキリスト教の指導者であり、キリスト教の福音に仕える人、ミニスター（minister）です。彼らは、聖書的かつ使徒的真理を宣べ伝え、教えます（使徒2・42）。そして、キリストの御名において、またキリストのために、他の人々に奉仕します。

## 救世軍と他のキリスト教会

9. 私たちは、神の恵みによって、すべてのキリスト者の間で、またそれぞれの地域の教会を含むすべての教派の間で、調和の取れた関係が築かれ、維持されることが神の御心であると信じます。救世軍が世界中にある他のキリスト者の共同体と多く、広範囲に及んで接していることは、救世軍を豊かにし、救世軍を聖霊の御業として理解することを深める上で役立っています。この理由により、救世軍はそのような関係をもつことを歓迎し、その関係を広げ、深めることを求めるものです。

私たちは、偏狭さや排他性は、神がご自分の民に対してもっておられる御心とは調和しないと信じます。あるいは、他の教派の神の民との分かち合いや協力によって、神が何かを教えようとされることもあると信じます。私たちは、謙遜をもって他者から学ぶように、エキュメニカルな場に就き、神がご自分の知恵をもって、救世軍に恵みとして授けてくださったあらゆることを他者と分かち合う備えがあります。

10. 私たちは、普遍的教会の目に見える表れとしての地上の教会は、それぞれに神からの賜物として祝福と力を授けられていると信じます。私たちは、救世軍も含めて、そのような表れである地上の教会にはそれぞれ人間の弱さのゆえに欠け目があることを認めながらも、これらの地上の諸教会がもつ力を尊び、敬います。

私たちは、他の教派の伝統に対して否定的な批評を加え、損なうことが私たちの務めではないと信じます。これはとくにサクラメ

ント（聖礼典）についてあてはまります。（サクラメント〈聖礼典〉については、けっして他に例のないものではありませんが、外的儀式としては行わないという私たちの立場は固有のものです。儀式的なサクラメント〈聖礼典〉を伴わずに聖い生涯を証しするようという、救世軍人に対する神の召しのゆえに、私たちは生活のすべてをサクラメント〈聖礼典〉として理解します。）他の教派や教会の営みについて、不利益を与える論評を行うということは、私たちの実践に反します。私たちは、他のキリスト者の集まりの教理と実践を低く見ることのないように注意深くあるようにと努めます。救世軍が教える上で強調しているのは、外的な事柄ではなく、むしろ、それぞれの信仰者が個人的に、そのような外的な儀式が証言しているところの内的かつ霊的な恵みを経験することが必要であるということです。私たちは、どのような外的な儀式であっても、それらが、救いや神の恵みを受けるためには当然欠かすことはできないとは主張しません。私たちは、いつでも、どこでも、信仰によって神と出会い、神の恵みを受けることができるということが聖書の真理であると主張するものです。私たちは、洗礼（バプテスマ）や聖餐といった外的儀式が恵みの手段として、多くの教派において用いられていることを認めています。外的儀式としてのサクラメント（聖礼典）を伴うことなく、聖なるものへと私たちが召されているということは、他の諸教会の手段と矛盾するものではありません。むしろ、私たちは、その召命がキリストにとって非常にうるわしいことであると信じます。他の教派の実践は同じように非常にうるわしいものでありますが、違いも認められます。両者の創造的な緊張をもちつつ、私たちの召命は保持されるべきであると信じます。最終的な神の経綸においては、それらは本来的な矛盾ではなく、創造的な逆説（パラドクス）なのです。

11. 私たちは、救世軍が神の御心によって召されて生まれ、神の恵みによって支えられており、神に従うために聖霊によって力を与えられていると信じます。それゆえ、神が私たちに与えてくださった名前、「救世軍」に要約されたもっとも重要な救世軍の目的は、たゆまず働きながら、老若男女を問わず人々をイエス・キリスト

における救いの信仰に導くこと、またキリストのために人々を聖い生活へと至らせることに励み努めることにあります。この聖い生活において、イエス・キリストを信じる人たちは、この世に汚されることのない者として留まり、苦しむ人々に対してより良く奉仕することができるのです（ヤコブ1・26、27）。

私たちは、これまでに述べられた聖なる、畏<sup>おそ</sup>るべき任務に召されているのは自分たち救世軍だけではないと信じます。したがって、私たちは、キリストのために共に労する人々を他のキリスト教会においても見いだすことができますし、そのことを大きな喜びとするものです。

---

注記：

救世軍人がキリスト教の歴史的信条（使徒信条、ニケヤ・コンスタンティノポリス信条、アタナシウス信条）を受け入れていることについては、『わたしたちの信仰—救世軍教理ハンドブック』（救世軍万国本営、1998年発行、2000年邦訳）を参照のこと。







## 救世軍の教理

1. **われらは、旧新約聖書が神の感動によりて与えられたること、また聖書のみが、クリスチャンの信仰及び実行に関する、神の法規たることを信ず。**
2. **われらは、無限に完全なる独一の神ありて、万物の創造者、保持者、また統治者にして唯これのみ、宗教的礼拝の真（しん）の対象たることを信ず。**
3. **われらは、神の中（なか）に、父、子、聖霊なる三つの人格ありて、本質においては、分かつべからざるもの、権能と栄光とにおいては同等たることを信ず。**
4. **われらは、イエス・キリストの人格の中（なか）に神性（しんせい）と人性とが結合していて、彼は正（まさ）しく真（しん）に神にして、また正（まさ）しく真（しん）に人たることを信ず。**
5. **われらは、われらの最初の父母が、罪なき者として創造されたが、彼の不従順によりてその純潔と幸福とを失い、墮落の結果、すべての人みな罪人（つみびと）となり、全く邪惡になり、またかかる者として当然神の怒りを受くべき者なることを信ず。**
6. **われらは、主イエス・キリストが、その苦難と死とによりて、全世界のために償罪（しょうざい）をしたもうたゆみに、何人（なにびと）でも欲する者は救われ得ることを信ず。**

7. われらは、神に対して悔い改めること、われらの主イエス・キリストを信ずること、また聖霊によりて新たに生まれることは、救いに必要なりと信ず。
8. われらは、われらの主イエス・キリストを信ずることにより、恩恵（めぐみ）によりて義とされること、また信ずる者はそのうちに証（あかし）を有することを信ず。
9. われらは、救いの状態の持続は、キリストに対する信仰と服従との持続によることを信ず。
10. われらは、「全く潔く」されることはすべての信者の特権にして、「霊と心と体とを全く守」られて、「われらの主イエス・キリストの来りたもうとき責むべき所なき」に至り得ることを信ず。
11. われらは、霊魂（れいこん）の不滅、身体（しんたい）の復活、世の終わりの総審判、正しき者の永遠の幸福、及び悪しき者の永遠の刑罰を信ず。





## 少年兵の約束

わたしは、神様に罪のゆるしをお願いしましたので、神様はわたしを、神様に愛される、従順な神様の子どもにしてくださいと信じます。

イエス様はわたしを罪から救ってくださる救い主ですから、イエス様はわたしが良い子でいられるようにしてくださいと信じ、ほかの人たちをイエス様のもとへ導くように励みます。

わたしは、祈り、聖書を読み、イエス様の助けによって、きよい生活をするように、おもいとことばとおこないとに気をつけることを約束します。

わたしはたばこをすいません。からだを害する薬物を取りません。お酒を飲みません。





## 救世軍兵士の誓約

私は、イエス・キリストを私の救い主、また主として受け入れた者であり、この地上におけるキリストの教会の一員・救世軍の兵士となるために、神の恵みによって今ここに次の誓約をいたします。

私は、救世軍教理 11 か条のうちに示されている神の言葉の真理を信じ、これに従って生きることを約束いたします。

### 救世軍の教理

われらは、旧新約聖書が神の感動によりて与えられたること、また聖書のみが、クリスチャンの信仰及び実行に関する、神の法規たることを信ず。

われらは、無限に完全なる独一の神ありて、万物の創造者、保持者、また統治者にして唯これのみ、宗教的礼拝の真（しん）の対象たることを信ず。

われらは、神の中（なか）に、父、子、聖霊なる三つの人格ありて、本質においては、分かつべからざるもの、権能と栄光とにおいては同等たることを信ず。

われらは、イエス・キリストの人格の中（なか）に神性（しんせい）と人性とが結合して、彼は正（まさ）しく真（しん）に神にして、また正（まさ）しく真（しん）に人たることを信ず。

われらは、われらの最初の父母が、罪なき者として創造されたが、彼の不従順によりてその純潔と幸福とを失い、墮落の結果、すべての人みな罪人（つみびと）となり、全く邪悪になり、またかかる者として当然神の怒りを受くべき者なることを信ず。

われらは、主イエス・キリストが、その苦難と死とによりて、全世界のために償罪（しょうざい）をしたもうたゆめに、何人（なにびと）でも欲する者は救われ得ることを信ず。

われらは、神に対して悔い改めること、われらの主イエス・キリ

ストを信ずること、また聖霊によりて新たに生まれることは、救いに必要なりと**信ず**。

**われらは**、われらの主イエス・キリストを信ずることにより、恩恵（めぐみ）によりて義とされること、また信ずる者はそのうちに証（あかし）を有することを**信ず**。

**われらは**、救いの状態の持続は、キリストに対する信仰と服従との持続によることを**信ず**。

**われらは**、「全く潔く」されることはすべての信者の特権にして、「霊と心と体とを全く守」られて、「われらの主イエス・キリストの来りたもうとき責むべき所なき」に至り得ることを**信ず**。

**われらは**、霊魂（れいこん）の不滅、身体（しんたい）の復活、世の終わりの総審判、正しき者の永遠の幸福、及び悪しき者の永遠の刑罰を**信ず**。



**私は**、日ごとのあゆみにおいて聖霊の働きと導きに従い、礼拝と祈りとみ言葉と自制とにより、恵みによって成長するよう努めることを約束いたします。

**私は**、この世の価値観によってではなく、神の国の価値観に従って生きることを約束いたします。

**私は**、どのような場所でも、どのような時にも、クリスチャンとしての高い水準をあかしし、思いにおいても、言葉においても、行為においても、恥ずべき、汚（けが）れた、不真実な、神を汚（けが）するような、不正直な、不道德なものについては、これを拒否することを約束いたします。

**私は**、家族、隣人、同僚、他の救世軍人、私が責任を負うべき人々、その他すべての人たちとの関係の中で、クリスチャンの高い理想を維持することを約束いたします。

**私は**、結婚と家庭生活との神聖さを保ちつづけることを約束いたし

ます。

**私は、私に与えられた時間・賜物・金銭・財産、さらに私の体と知性と霊性との管理については神に対して責任があると認め、それらの忠実な管理者となることを約束いたします。**

**私は、アルコール性飲料、たばこ、医薬用目的以外の麻薬性薬品の使用、ギャンブル、俗悪なポルノ関連の事物、オカルト等、体や霊性をそこなうすべてのものから遠ざかることを約束いたします。**

**私は、神が世界をおこした目的に忠実であること、すなわち、イエス・キリストの福音を伝え、人々をキリストに導き、助けを要する人や弱い人に、キリストの名により、助けの手を伸べることを約束いたします。**

**私は、小隊での礼拝や活動に積極的に参加すること、また、救世軍の使命と全世界的な働きを支え、拡張するため、献身的かつ犠牲的に献げものをすることを約束いたします。**

**私は、救世軍の主義と活動とに真実を尽くし、指導者に従うことを約束いたします。また、時が良くても悪くても、救世軍の精神を公に示すことを約束いたします。**

**私は、私の救いのために死に、そして今生きておられるキリストの愛が私に迫り、生涯を全世界の救いのため献げるよう求めていることを確信し、今ここに、私の自由意志によって「兵士の誓約」に記名調印し誓約するにあたり、列席のすべての方々が証人となるよう求めます。そして、私は、神の助けによって、救世軍のまことの兵士であるとの十分な決意をここに宣言いたします。**





## 士官の誓約書

### 私の誓約

私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの福音を宣べ伝えるために、救世軍士官として神に召された私は、今ここに、厳粛なる誓約を立て、自らを神に献げるものであります。

1. 私は、終生、何ものにも勝って神を愛し、神に仕えることを約束いたします。
2. 私は、魂の救いのために生きることを、私の生涯の最大目的とすることを約束いたします。
3. 私は、貧しい人を助け、飢えている人に食物を与え、着るものの無い人に着せ、愛されていない人を愛し、友の無い人の友となることを約束いたします。
4. 私は、救世軍の教理と主義とを守り、維持し、神の恵みによって、救世軍士官としての実（じつ）をあげることを約束いたします。

私の主、また救い主の力により、司令官、士官学校長、教官、また同期候補生の前に於いて、以上、厳かに誓約いたします。

## 「キリストのからだ」における救世軍

— 教会に関する表明 —

---

2009年9月1日 初版 第1刷 発行

発行者 吉 田 眞

発行所 救 世 軍 本 営

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17

TEL 03-3237-0881

印刷所 株式会社 ピーアンドエス

落丁・乱丁の際はお取替えいたします。

© 救世軍本営 2009

Printed in Japan